

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

特集……P2

絆つなげる 明日へつながる①

## 集合住宅での 見守り・支え合いの今

「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ全県キャンペーン……P6

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンが始動!  
～発起人会が開催される～

みんなでつくるひょうごの福祉……P7

“絆つなげる”地域づくりを目指して  
～団地の一室を活用した相談窓口の取り組み～

まちとつながる・住民とつながる! 企業・NPOの地域づくりレポート…P8

給湯器リサイクル事業を通じた社会との共生  
～“人に笑顔”障害者自立支援プロジェクト～

地域を駆ける! ワーカー物語……P8

地域で暮らす子どもと家族を支えるかけはしになりたい  
社会福祉法人神戸婦人同情会  
「こども家庭支援センターキャンディ」石田 佳菜子さん

県社協ニュース……P10

みんなの広場……P11

7

No.737

7月は  
社会を明るくする  
運動強化月間だよ







# ストップ・ザ・無縁社会 絆つなげる 明日へつながる① 集合住宅での見守り・支え合いの今

新聞やテレビでは「孤立死」の報道が後を絶たない。

阪神・淡路大震災後の仮設住宅での「孤立死」は、大きな社会問題として取り上げられたが、人とのつながりが希薄となり、誰にも気づかれずに亡くなる「孤立死」は、いまや各地で誰にでも起こり得る問題となっている。

特に、公営住宅やマンションなどの集合住宅は地域とのつながりも薄いのが現状で、孤立死も増加している。

今月は、集合住宅での取り組みから、孤立を乗り越えて安心できる住民同士のつながりづくりのヒントを探る。



## 目立つ高齢化と「孤立死」の増加

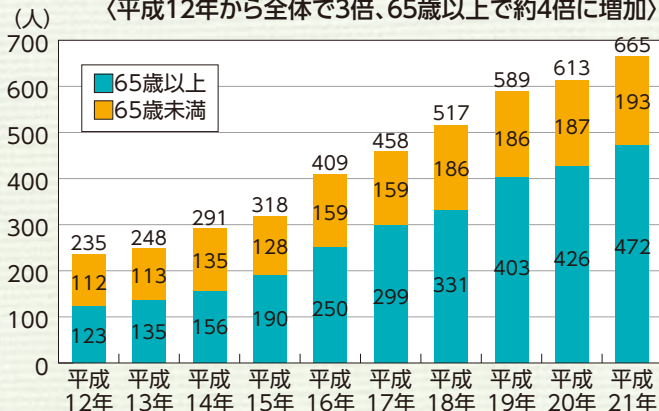
4人に1人が65歳以上、約2割が単身高齢世帯

右の数字は、兵庫県にある県営住宅5万4,077戸の状況で、県平均値を少し上回る数字となっている。阪神・淡路大震災後に造られた災害復興公営住宅の高齢化率は約5割、単身高齢世帯率は4割以上と、一般県営住宅の倍以上に上る。

県住宅供給公社によると、「孤立死」の定義づけはないが、誰にも看取られずに亡くなったのは、神戸事務所管轄・神戸市・淡路市・丹波・但馬で、昨年度は40件を把握しているという。死後すぐに家族や近隣から連絡がある場合もあるが、死後1週間から1か月間、誰にも気づかない場合もある。全国でも同じような傾向で、都市再生機構が管理する住宅で誰にも看取られずに亡くなった「孤立死」の件数は図表1のとおりだ。

若い世代が入居するマンションも多く、必ずしも集合住宅での高齢

■図表1 (独)都市再生機構における「孤立死」の発生状況  
(平成12年から全体で3倍、65歳以上で約4倍に増加)



※(独)都市再生機構が運営管理する賃貸住宅で、単身居住者が誰にも看取られることなく賃貸住宅内で死亡した件数

握していなかったり、自治会に未加入で地域とのつながりがなかったりしたため、生前の支援にはつながりなかった。

「孤立死」は一つの象徴的な出来事であるが、私たちの身の周りで、家族や友人、近隣住民、会社とのつながりが薄れ、必要な時に必要な支援につながらない人が確実に増えている。これは、高齢化の進展とひとり暮らしの増加などいくつかの要因があるが、公営住宅・マンションなどの集合住宅を中心とした居住形態の変化も背景の一つにあげられる。

## 孤立化しやすい集合住宅の特徴

### ①入居者層の偏り

高度成長期に造成された団地などの集合住宅では一気に高齢化が進み、周辺地域よりも極端に一人暮らし高齢者が多い場合がある。この場合、居住者が孤立化しやすい。

### ②地域組織の活動の難しさ

自治会に加入しない、あるいは自



治会を作らない集合住宅が増えていく。近所付き合いのわずらわしさから解放され、匿名性は確保されるが、孤立した暮らしになりがちである。また、「オールドニュータウン」化している集合住宅では一気に高齢化が進み、自治会活動の維持そのものが難しいところも多い。

### ③住宅構造・立地による問題

築30〜40年の集合住宅ではエレベーターがない場合が多く、段差が多いので高齢者の外出の意欲を減らさせる原因になっている。また、郊外の土地の広い場所に造成された大規模公営住宅などは、買い物や通院などに不便で、社会参加ができなくなる場合もある。

## 集合住宅での孤立を防ぐ！事例から見えるヒント

こうした課題を抱える県内各地の集合住宅では、住民が工夫を凝らし、高齢になっても障害をもっても一人暮らしであっても安心して暮らせる新しいつながりづくりに挑戦している。次ページでは、4つの事例を紹介するが、これらの取り組みから見える活動のポイントを伝え、集合住宅での地域づくりのヒントとしたい。

### ①見守り活動の日常化・仕組み化

もともとつながりのある地域ではお互いの関係の中から自然発生的に見守りが行われる。見守りとは、相手を気遣い、何かあれば手助けをし合う、お互いさまの関係から生まれる自然な行為である。

では、つながりが希薄になった地域でどのように見守り合う関係が生まれるのか。集合住宅に限ったことではないが、事例3の「見守り推進委員」のような仕組みをつくり、見守りの目を地域につくる工夫が各地で行われている。この際のカ

ギは、日常的に声を掛け合える関係を育み、住民自身が仕組みをつくることである。

### ②問題意識を共有する話し合いと学び合い

見守りの必要性や孤立が問題になっていることの現状を、そこに住む住民自らが共有し、その地域にあった方法を編み出す、そのための話し合いや学習活動そのものが、一過性に終わらない地域づくりの基礎になる。事例1、2がその好例である。なお、事例2では、既存の自治会だけでなく、管理組合同士が連携して、やや広域で課題解決に向けた話し合いを進めていることも特徴的である。

### ③外からの応援体制づくり

そこに暮らす住民一人ひとりが地域づくりの担い手であり、高齢者もできることを担うことがいきいきとした暮らしにつながる。これは事例3から学ぶポイントである。

その上で、4つの事例で取り組まれているように、住宅内でできないことは行政や社協、NPO、ときには大学や学生などの支援を呼び込みながら地域づくりを進めることが、課題を乗り越える力となっている。





事例1

三田市・県営武庫が丘西高層住宅  
「復興住宅の見守り・支え合い」

阪神・淡路大震災の被災者が入居するため整備された災害復興住宅。応急仮設住宅に比べ、居住環境やプライバシーの保護が向上した一方で、近隣のつながりや交流機会が減少、高齢者等の孤立死の対応なども課題となっている。入居者一人ひとりの高齢化が進む中、単身世帯も多くなっている。三田市にある県営武庫が丘西高層住宅もその一つ。住民が高齢化する中、自治会の維持や新たな人材の発掘が課題となっている。

このような課題が存在する中、兵庫県では、復興住宅に暮らす高齢者を見守りや「ミニミニ」支援を進めるため、「高齢者自立支援ひろば」事業が展開されている。ひろばを運営する三田市社会福祉協議会では、常駐型の見守り・緊急対応、巡回による見守りを行うほか、地域住民や地域活動団体・専門機関が現状を踏まえた見守り活動が行えるよう見守りネットワーク会議

を開催し、情報交換を行っている。

さらに住民の孤立を防ぐためには、限られた人たちによる見守りだけではなく、そばにいる近隣の住民が声を掛け合い、支え合うことが必要だ。そのためには、孤立を予防する観点から住民の交流も大切である。現在、住民が主体となって喫茶サロンや趣味のサークルなども実施されており、住宅外の住民からも協力・参加がある。参加者等からも協力・参加がある。参加者等からも協力・参加がある。参加者等からも協力・参加がある。参加者等からも協力・参加がある。

事例2

宝塚市・白瀬川両岸集合住宅  
「管理組合が連携して課題解決」

阪急今津線逆瀬川駅から六甲山側に、8つのマンションから成る集合住宅群がある。そこで組織されている白瀬川集合住宅協議会（以下、協議会）は、主に管理組合で構成され、その中に助け合いの輪連絡会議（以下、「輪」）がある。定期的に開催される「輪」の事務



活発な意見が飛び交う住民会議

局会議。この6月の話題は、各マンション内の高齢化や孤立化の現状を踏まえた見守り・支え合い活動の進め方についてであった。

「まずは知り合いになることから始めて、見守りが必要な人数など実態を把握しないと」とメンバーの一人が発言。それを受け、「各マンションで取り組んでいるサロンなどに参加できれば、仲間も増え、お互いに意識していくことで孤立も防げるのでは」という意見も出て、事務局では参加しやすい関係づくりの必要性が確認できた。

しかし、活動するにも場所や財源など、課題が沢山ある。「民生委員とも連携して、情報共有の場を設けよう」など、さまざまな知恵とアイデアが出され、会議は熱を帯びた。世話役の小久保さんの「役員だけの重荷にならないよう、みんなでぼちぼち取り組んでいこう」という言葉がこの日の会議は終了した。

協議会は、「最期まで住み続けられる街」を目指し、いざというとき自分の意思を記す「緊急対応ノート」の作成を目的に、「輪」を平成19年に組織化した。ノートの説明会と同時に、全住民に対してのアンケート調査も実施。そこから、介護保険など制度やサービスの狭間の問題に対応するには、ボランティアや住民同士の助け合いの環境を作り出していく必要があるという声が上がリ、「輪」の会議を定期的に開催している。「8棟で防災勉強会や定例会等で交流を」「活動拠点を持ちたい」など意欲的な意見も出され、自分の住む地域を良くしたいという住民の思いで動き出している。

事例3

尼崎市・UR賃貸住宅  
「パークタウン西武庫団地」  
「見守り推進委員・協力員の存在が地域の安心に」

団地内サークル「菊の会」が整備する花々や屋外図書館。広々とした敷地内では笑い声が響く。その先の集会所では「ふれあい喫茶」が開かれ、運営ボランティアなど、輪になっておしゃべりする人たちが楽しそうだ。

今から50年前、2,400戸の住宅公団からスタートした「パークタウン西武庫団地」。平成17年の建替えで約半分となり、昔からの住民がほとんど継続居住した結果、現在では65歳以上の高齢者が約4割となった。鉄筋の扉を閉じれば生活が見えない団地では、数年前から、孤立死の問題が



同団地の「ふれあい喫茶」と「屋外図書館」

現実のものに。「高齢者が進んで外に出てもらえる工夫を」と皆が考えてきたのが「ふれあい喫茶」だ。

そして2年前、民生委員・児童委員、自治会役員、サークル代表者などが手を挙げ、「見守り推進委員・協力員」として「高齢者等見守り安心事業」を開始。希望した65歳以上の高齢者を対象に、週1回程度声をかける等、気遣う仕組みをつくり、「気にかけてくださる方がいて心強い」と安心感が生まれている。「見守りには必要ないわ」という元気な方には推進委員になってもらうなど、誰もが担い手になり得る雰囲気がつくられている。行政、社協、地域包括支援センター、近隣病院などとも意見を交換し、できることから自然体でできるよう取り組んでいる。

見守り安心委員会会長・千木良昌彦さんは、「人間関係が希薄になりがちな集合住宅だが、出会ったら声をかけ合えるようになった。今後は、離れて暮らす高齢者のご家族の思いも聞いていきたい」と語る。

※国のモデル事業「安心生活創造事業」の尼崎市における呼称。

事例4

神戸市垂水区・明石市・明舞団地  
「住民・NPO・大学行政など  
多様な主体によるまちづくり」

神戸市垂水区と明石市をまたぐ地域に、昭和30〜40年代に開発された明舞団地。入居から40年以上が経つ現在、高齢化率は30%を超え、人口減少等に伴う地域活力の低下、コミュニティ機能の衰退などが大きな課題である。

各自治会やまちづくり協議会等では、防犯活動などと絡めながら近隣の住民同士の声掛けや助け合いを呼び掛けるなど、きめ細かな活動がされているが、新たな住民層の増加とともに自治会加入率の低下なども進んでいる状態である。

このような状況の中、兵庫県では、平成13年から、団地再生に取り組みはじめ、調査活動や住民によるまちづくりワークショップをNPOとともに実施してきた。また、積極的に若者世代の力を団地に取り込もうと、NPO等によるモデル事業の募集・実施、活動拠点として空き店舗を活用し、兵庫県立大学等と



地域活動者と住民の交流拠点、「明舞まちづくり広場」

の連携による「明舞まちなかラボ」の開設なども実施。現在、多様な団体によるサロン活動・ミニデイなどの交流活動の場や、配食サービスなどの生活支援活動が生まれている。これらの活動は高齢者等の見守りにもつながっている。現在、各々の主体で熱心に活動が進められているが、今後の課題として各主体の連携の場が模索されている。自治会等での住民活動によるきめ細かな見守り・声掛けとニーズの発見から、NPO等とも連携して明舞団地全体で暮らしやすいまちづくりをどう進めていくか、高齢化単身化がますます加速する一方、連携・協働を着実に積み上げた活動が求められる。



今月は、神戸市北区の有野団地に昨年度オープンした高齢者等相談ルーム「なでしこ喜楽部」(以下、「喜楽部」)を紹介するよ。高齢化率30%を超える団地では、高齢者の孤立や孤独死等の福祉課題が顕在化している、喜楽部がその対応に一役買っているんだって。



## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

団地のある有野台地区はふれあい喫茶等の地域活動は活発だが、参加者が固定されがちだという。そこで喜楽部では、開設当初から半年で団地73棟2,140戸の全戸訪問で住民の実態把握に努めるとともに、住民同士が安否確認しあう「見守りサークル」の結成を働きかけた。平成23年度末現在で、5つのサークルが活動を行っている。

喜楽部は、団地および周辺住民の「見守り」「介護」「医療」「仲間づくり」などの相談窓口として、「すべての人に生きる喜びと安心を」という理念を掲げる社会福祉法人 経済生会支部兵庫県済生会・ふじの里が中心となり、UR都市機構、市区社協の協力のもと、団地の一室に開設された。ふじの里から派遣された常駐の相談員2人が、高齢者からの相談のほか、子育ての悩みや障害者の生活相談にも対応し、地域の安心を支える拠点となっている。

### 地域の「安心」と「交流」の場を作ろう

「見守り」「介護」「医療」「仲間づくり」などの相談窓口として、「すべての人に生きる喜びと安心を」という理念を掲げる社会福祉法人 経済生会支部兵庫県済生会・ふじの里が中心となり、UR都市機構、市区社協の協力のもと、団地の一室に開設された。ふじの里から派遣された常駐の相談員2人が、高齢者からの相談のほか、子育ての悩みや障害者の生活相談にも対応し、地域の安心を支える拠点となっている。

## “絆つながる”地域づくりを目指して

～団地の一室を活用した相談窓口の取り組み～

「住民の力を引き出し、つながることが我々の仕事と気づいた」。開設当初からスタッフとして関わる松永りかさんは、住民発の活動の大切さをそう語る。「見守りサークルはその1つの形で、今ではグループ同士で情報交換を図り、活動が広がっている。これをきっかけに、将来的には住民同士が喜楽部の活動を考えたいというように支援したい」

### 活動を通して気づいた「住民の力」



団地内での課題を出し合う「見守りサークル」の集まり

喜楽部の河村淳子相談員も、「居場所不明や音信不通等の情報の多くは住民から寄せられ、改めて住民が持つ情報網の広さに驚かされた。やはり住民や地域とともに歩むことがこの活動の根幹と感じる」と自身の活

### 取材を終えて

団地の一室に拠点を構えた喜楽部は、住民の相談窓口であるとともに、気軽に立ち寄れる交流の場としての機能も果たしており、その“気軽さ”が住民にとっては好評だそうです。活動から1年が経過し、医療に関する相談が多いことから、看護師の健康に関する出前講座を新たに実施予定とのこと。広がりを見せる喜楽部の活動に今後も注目です。

特別養護老人ホームふじの里  
(社会福祉法人 経済生会支部兵庫県済生会)  
☎078-987-2230

動を振り返る。  
「絆つながる」地域づくりの拠点として  
団地は高齢化率の高さに加えて入居者の入れ替わりが非常に速く、住民同士のつながりが希薄という課題もある。ふじの里の次原美幸所長は「喜楽部は住民同士の絆を育む場として活用いただくとともに、日常のちょっとした困りごとを相談する窓口としての役割も果たしたい」と今後の抱負を語る。住民同士の絆を基盤とした地域づくりに向けて、喜楽部の挑戦は始まったばかりだ。

## 「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

「ストップ・ザ・無縁社会」  
全県キャンペーンの最新情報をお伝えします。

### TOPICS

## 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンが始動! ～発起人会が開催される～

6月15日、兵庫県福祉センターにおいて、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの発起人会が開催された。本会の呼びかけに応じて、福祉関係団体や、地域団体・経済団体など、18団体が発起人名簿に名を連ね、各団体の代表者が参集した。

主な協議事項は、8月に開催する設立総会において協議予定の規約案や今後のスケジュールなど。各発起人からは、「昨今は各種団体の会員数も減ってきており、大きな課題である」「兵庫県は日本の縮図



なので、キャンペーンでは色々なことが考えられる」など、「無縁社会」と言われる最近の社会状況に対する切迫感と、全県を挙げて絆・つながりの輪を築いていくキャンペーンへの期待が語られた。今後、本会では下記の趣意書を基に、設立総会に向けた準備を進めていく。

### 全県キャンペーン推進協議会設立総会

**日時** 平成24年8月10日(金) 13:00～16:00  
**場所** 神戸市内  
**内容** 記念講演(国際日本文化研究センター名誉教授 山折哲雄氏)

※詳細は、兵庫県社協(☎078-242-4633)までお問い合わせください。

### 趣意書

近年、わが国では社会の成熟化に伴い、価値観の多様化が進み、少子高齢化、核家族化、単身世帯の増加、結婚に対する若者の意識の変化、過度な個人主義、家族や社会とのコミュニケーションの希薄化、長引く不況を背景とした雇用形態の変化などの要因が重なり合い、社会から孤立する人が急速に増え、孤立死などが大きな社会問題として報道されました。この社会状況は“無縁社会”と呼ばれ、私たちに大きな衝撃を与えました。

社会保障や社会福祉制度の根底を支えるものは、家族の絆や地域・職場など多様な人々とのつながりや助け合いであり、これらの“絆”や“つながり”があつてこそ、安心・安全な地域社会を築けるのではないのでしょうか。

今日の“無縁社会”と呼ばれる社会状況を、私たち一人ひとりが問い直し、お互いの存在を認め合い、そして人と人がつながり、支え合える社会の実現に向け、自らできることから絆をつなげ、明日へつながるよう、広く県民の皆様へ呼びかけていきたいと考えております。

そこで、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会を設立し、全県キャンペーンとして展開します。この趣旨をご理解のうえ、全県キャンペーン推進協議会にご参画いただき、共にキャンペーンの輪を広げていただけますよう心からお願い申し上げます。

平成24年6月吉日

### 発起人

兵庫県連合自治会 会長	岩成 孝
兵庫県連合婦人会 会長	北野 美智子
神戸市婦人団体協議会 会長	玉田 はる代
兵庫県消費者団体連絡協議会 会長	幡井 政子
兵庫県子ども会連合会 理事長	小林 勝弘
兵庫県社会福祉協議会 会長	武田 政義
兵庫県市町社協活動推進協議会 会長	戸田 幸男
神戸市社会福祉協議会 理事長	今井 鎮雄
兵庫県民生委員児童委員連合会 会長	加納 多恵子
神戸市民生委員児童委員協議会 理事長	田丸 泰邦
兵庫県社会福祉施設経営者協議会 会長	婦木 治
兵庫県老人クラブ連合会 会長	田中 譲治
兵庫県医師会 会長	川島 龍一
生活協同組合コープこうべ 組合長理事	本田 英一
兵庫県商工会議所連合会 会頭	大橋 忠晴
兵庫県商工会連合会 会長	木南 岩男
兵庫県経営者協会 会長	寺崎 正俊
日本労働組合総連合会兵庫県連合会 会長	森本 洋平

### 顧問

兵庫県知事 井戸 敏三



このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

方法は違っても、みんな同じ思いで関わったつもりなので、選べないです。子どもたちの施設入所の背景には実に多様な社会問題があります。かつては、親の行方不明、離婚、入院など、経済的な事情も含めて親が子どもを養育することが困難になったことが主な理由でしたが、児童福祉法の大改正があった1997年以降は

印象に残るエピソードは？

高校生のときに愛読していたファッション誌の職業の紹介コーナーに、児童養護施設の職員が掲載され、「カッコいい」と思ったのがきっかけです(笑)。「子どもたちのために、自分の力が役立てられれば」と、保育士の勉強をして児童養護施設子ども供の家に就職しました。

あなたの原点は？

地域を駆ける！ワーカー物語

## 地域で暮らす子どもと家族を支える かけはしになりたい

力を入れたい活動は？

児童家庭支援センターは、まさに地域で暮らす家族の支援機関です。センターでは、虐待や養育困難に直面している家族に面接の中で子どもへの行動を振り返りながらしつけの仕方等を教えるほか、福祉関係機関、学

親の「虐待」が主な理由です。虐待をしてしまった親御さんは、相談できる人がいないという方も多く、子どもへの愛情をどう伝えたらいいかが分からない。しつけのつもりだったので、当初は子どもの傷つきに気づいてない場合もあります。就労支援や、障害がある場合の福祉的支援が必要な方も多く、問題はさらに複合的になりました。さまざまな家族と関わり、地域で家族が暮らす際の支援の重要性を実感するようになりました。



支援をしている子どもや家族が自らの力を最大限に発揮し、主体的に生活課題の解決を行うことができるように支えになりたい。そのた

大切にしてほしいことは、

校、民生委員児童委員等とのケースカンファレンスに参加しています。支援者の連携は家族支援に欠かせません。民生委員さんは、子育て家庭を最も身近で見守ってくださる心強い存在です。

取材を終えて

子どもや家族一人ひとりの力を信じ支えているからこそ、地域住民や専門職の力がネットワークとなってさらに発揮されることを願う石田さん。多くの人が石田さんを通じてつながり、新たな力を生み出していきます。

社会福祉法人神戸婦人同情会  
「こども家庭支援センターキャンディ」

いしだ かなこ  
石田 佳菜子さん

### Personal History

20歳 社会福祉法人神戸婦人同情会に児童養護施設職員として就職

入所児童の支援に取り組む  
～入退所児童と関わる中で、地域で家族を支える重要性を痛感する～

34歳 同法人が開設した児童家庭支援センターの相談員を担当



まちとつながる・住民とつながる!

## 企業・NPOの地域づくりレポート

# 給湯器リサイクル事業を通じた社会との共生 ～人に笑顔、障害者自立支援プロジェクト～

### 「良き企業市民として事業を通じた社会貢献に取り組む」

「お風呂は人を幸せにする」を創業の原点に、「お湯と健康 愛とやすらぎ 豊かな暮らしをつくるノリツ」の企業理念のもと、昨年60周年を迎えた株式会社ノリツ。「創業60周年を迎え、「お湯を越えていくノリツグループ」として新中期計画(Vプラン16)をスタートさせたことを契機に、弊社が単独で行っていた様々なCSR活動を一つにまとめ、社外の方々と連携して展開していく活動にするために、3つの笑顔プロジェクトを立ち上げました」と経営企画室参事の大前優治さんは話す。



インタビューを受ける大前 優治さん

「新しい幸せを、わかすこと」をグループビジョンとし、「人と地球と暮らしの笑顔」をテーマにスタートした3つのプロジェクト。そのひとつ、人に笑顔プロジェクトは、給湯器リ

サイクルで人を笑顔にするために、福祉施設とタイアップし、障害者の方々が、いつも笑顔で働ける場所をつくることを目的とした取り組みである。

### 「給湯器リサイクルで一人に笑顔」

平成18年に、元社員が社内ベンチャー事業として、障害者を雇用するための特例子会社※エスコアハーツを設立。社員の名刺印刷や社内広報物などの発送作業、また、使用済み給湯器の分解・分別作業などを行っている。

エスコアハーツは、「離職者がいない」ということから注目を集め、地域の福祉施設から見学に来ることが多々あった。そのつながりで、兵庫県社会福祉事業団小野福祉工場から給湯器リサイクル事業を実施したいというオファーがあり、このリサイクル事業を社会と環境にやさしい事業として広げていくために、分解作業などを行う福祉事業所、使用済み給湯器を提供する事業者、そしてエスコアハーツの三者が連携することとなった。エスコアハーツは福祉事業所への分解ノウハウの提供と納品回収、販売業者からの使用済み給湯器の引き取りを担っている。



使用済み給湯器の分解・分別作業を行う様子

H.O.、社会福祉法人いずみ野福祉会と連携して事業を行い、就労機会を提供している。福祉事業所でも、新たな職務開発ができたことで、他施設からの見学者が増え、人から見られることで働いている人のモチベーションも上がり、職場が明るく活性化しているという。企業と地域との新たなつながりによる取り組みとして、今後も注目したい。

※特例子会社：事業主が障害者の雇用に特別配慮した子会社を設立し、一定の要件を満たす場合に、特例としてその子会社に雇用されている労働者を親会社に雇用されているものとみなして障害者雇用率を算定できる制度

株式会社ノリツ  
代表取締役社長兼代表執行役員 國井 総一郎  
昭和26年3月設立  
兵庫県神戸市中央区江戸町93番(栄光ビル)  
<http://www.noritz.co.jp/>



平成23年度県社協の事業・決算報告

5月28日、本会理事会評議員会にて平成23年度の県社協事業報告と決算が承認された。2015年計画に基づく平成23年度の特徴的な取り組みと収支概要は次のとおり。

■市町域での地域福祉の推進力を高める支援

市町村協地域福祉推進計画の策定支援を行うとともに、東日本大震災に係る救援・支援活動のため、緊急的に県内社協事務局長会議や地域組織担当者会議等の回数を増やし、支援方策の協議等を行った。

■多様な主体がつながり、資源が循環する仕組みづくり

ツイッター等の活用によりボランティア活動の情報発信を強化するとともに、東日本大震災や台風災害の被災地支援のため、ボランティアの運行やインフォメーションセンターの設置・運営等を行った。

■質の高い福祉サービスの充実・開発

「ひょうご福祉・介護の仕事魅力発見キャンペーン2011」を展開し、福祉に関する啓発DVDを作成

第51回社会福祉夏季大学の開催  
〜絆つなげる・明日へつなげる〜

「果たして、無縁社会のままではよいのだろうか？」  
孤立死や生活保護のあり方などに関するニュースが連日報道される中、政府では孤立死の防止対策や生活困窮者の支援に向けた「生活支援戦略」を取りまとめるなどの新たな動きが始まっている。  
一方で、昨今の「無縁社会」と呼ばれる状況を乗り越えるためには、行政策だけに頼るのではなく、私たち一人ひとりがこの問いに向き合い、人と人とのつながりのあり方を

考え直していくことが大切である。  
このような状況を踏まえ、本紙でも繰り返しお伝えしているとおり、本会では平成24年度より「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを提唱し、県内の多くの方々と一緒に携った取り組みを進めていくこととしている。  
第51回夏季大学は、同キャンペーンの一環として、これからの新たな支え合い社会を実現していくための方策を、参加者とともに考える機会とする。

第51回 社会福祉夏季大学

- 日時 平成24年8月23日(木) 13:00~16:35
- 会場 神戸国際会議場 メインホール
- 参加対象 地域福祉に関心のある人 (定員600人)
- 聴講料 一人3,000円

時間	内容
13:00	開会
13:30~14:45	基調講演「次世代の福祉社会のあり方とは～“無縁社会”を超えて～」 宮本 太郎氏 (北海道大学大学院法学研究科教授)
15:00~16:30	鼎談「コミュニティをどう再生するか～新たなつながりづくりに向けて～」 橋本 俊昭氏(同志社大学経済学部教授) 辻 哲夫氏(東京大学高齢社会総合研究機構教授) 大熊 由紀子氏(国際医療福祉大学大学院教授)
16:35	閉会

■お問い合わせ先  
兵庫県社会福祉協議会総務企画部  
☎078-242-4633



みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです



認知症があっても安心して暮らせる社会を 認知症の人と家族の会兵庫県支部

当会は、会員同志が励ましあい、助け合って「認知症があっても安心して暮らせる社会」を目指しています。活動は、「毎月発行の会報」「つどい」「電話相談」の3本の柱を中心に、体験談の講師、行政への要望、アルツハイマーデーなどの啓発活動を行っています。平成24年度は、認知症の人と家族への支援をすすめる「第28回全国研究集会」を下記の通り開催します。一人でも多くの方々に「認知症の理解」を深める研究集会です。ご参加をお待ちしています。

- 日時 平成24年10月28日(日) 9:30~16:00
- 場所 神戸文化ホール 大ホール
- 基調講演 「精神科医療のなかの認知症医療・介護」  
精神科医 前田 潔氏(神戸大学名誉教授 神戸学院大学教授)
- 参加費 2,000円(資料代)
- 問い合わせ先 兵庫県支部 第28回全国研究集会実行委員会  
〒652-0803 神戸市兵庫区大開通6丁目3-23-301  
☎078-381-9473 FAX078-330-8430
- URL [http://www.alzheimer.or.jp/?page\\_id=159](http://www.alzheimer.or.jp/?page_id=159)
- ※申し込みは7月より開始します。ホームページまたは上記までお問い合わせ下さい。

また、正しい認知症への理解を呼びかける「世界アルツハイマーデー記念講演会」を今年もを行いますので、ぜひご参加ください。

- 日時 平成24年9月23日(日) 13:30~15:30
- 場所 兵庫県農業会館
- 講師 沖田 裕子氏
- 演題 「認知症と生きる本人と家族の幸せのために」
- 参加費 無料

■連絡先 認知症の人と家族の会兵庫県支部  
〒651-1102 神戸市北区山田町下谷上字中一里山14-1しあわせの村内 ☎&FAX 078-741-7707

■アピールしたい活動の情報をお寄せください。 お問い合わせ先 兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

一般会計・公益事業特別会計・収益事業特別会計  
資金収支計算書

区分	収支	一般会計	公益事業特別会計	収益事業特別会計
経常活動による収支	収入	660,429	738,831	16,473
	支出	599,844	915,229	16,473
経常活動資金収支差額		60,585	△176,398	0
施設整備等による収支	収入	0	0	0
	支出	272	14,446	0
施設整備等資金収支差額		△272	△14,446	0
財務活動による収支	収入	299,484	4,424,026	0
	支出	356,577	4,214,452	0
財務活動資金収支差額		△57,093	209,573	0
当期資金収支差額合計		3,219	18,728	0

その他の特別会計資金収支計算書

区分	収支	生活福祉資金特別会計	生活福祉資金(災害)特別会計	生活復旧資金特別会計	要保護世帯向け不動産担保型生活資金特別会計	生活福祉資金貸付事務費特別会計	臨時特例つなぎ資金貸付事業特別会計
経常活動による収支	収入	474,919	31,136	212	3,280	291,079	82,330
	支出	1,578,487	0	0	44,739	287,459	110,958
経常活動資金収支差額		△1,103,568	31,136	212	△41,458	3,619	△28,628
施設整備等による収支	収入	0	0	0	0	0	0
	支出	0	0	0	0	3,619	452
施設整備等資金収支差額		0	0	0	0	△3,619	△452
財務活動による収支	収入	6,549,174	0	0	116,235	0	0
	支出	2,169,022	52,690	180	0	0	0
財務活動資金収支差額		4,380,152	△52,690	△180	116,235	0	0
当期資金収支差額合計		3,276,583	△21,554	31	74,776	0	△29,081

※事業 決算報告は本会ホームページでも掲載しています。  
URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

寄付について(お礼)

6月6日、県福祉センターにて、株式会社トヨタレンタリース兵庫からの車椅子の寄贈式が行われた。本取り組みは今回で6回目となり、企業の社会貢献活動として実施している。当日は、同社の瀧川社長が、寄贈先である県老人福祉事業協会、県身体障害者支援施設協議会、県知的障害者施設協会へ目録を贈呈。続いて各代表者から謝辞が述べられ、本会の武田会長から感謝状が贈呈された。





助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細については、それぞれの問合せ先にご確認ください。

損保ジャパン記念財団  
平成24年度社会福祉助成・  
自動車購入費助成

障害の有無にかかわらずすべての人が地域の中で、ともに支えあいながら暮らすことのできる社会づくりの一助となるよう自動車購入資金を助成します。

対象 西日本地区に所在する特定非営利活動法人、社会福祉法人で法人格を取得している団体、または取得を目指している団体で、主として障害者の在宅福祉活動を行う団体

助成額 1件100万円まで(総額1,200万円)

締切り 平成24年7月31日(火)必着

公益財団法人損保ジャパン記念財団事務局  
TEL03-3349-9570

URL <http://www.sj-foundation.org>

一般財団法人 松翁会  
平成24年度 社会福祉助成金

社会福祉に関する民間の事業を対象に助成します。

対象 原則として法人、団体で以下の基準を満たすこと①社会福祉の向上を目的とした企画である②明確な企画(目的、内容、資金使途等)に基づく事業で具体的な計画を持つこと③推進体制が確立しており、自己資金の調達努力をしていること

助成金額 1件上限60万円(総額700万円)

締切り 平成24年7月31日(火)消印有効

一般財団法人松翁会 事務局社会福祉事業部助成係 TEL03-3201-3225

URL <http://shouhukai.or.jp/>

社会福祉法人 清水基金  
「一般助成事業」

対象 障害児・者の福祉の増進を目的として運営されている社会福祉法人を対象に、利用者のために必要な建物・車両・機器などの整備費用

助成金額 1件50万円以上700万円以内(合計60~70件程度)※申し込み法人が事業費の30%以上を負担)

締切り 平成24年7月31日(火)必着

社会福祉法人清水基金  
TEL03-3273-3503

URL <http://www1a.biglobe.ne.jp/s-kikin/>

事務所を移転しました(平成24年6月1日~)

兵庫県児童養護連絡協議会・兵庫県乳児院連盟  
神戸市中央区坂口通2-1-1県福祉センター内  
TEL078-855-5915 FAX078-855-5916

募集

第14回 人間サイズのまちづくり賞

兵庫県では平成11年度から、成熟社会にふさわしいまちづくりに貢献している、優れた建築物や顕著な功績のあった活動団体等を顕彰しています。自薦・他薦を問いません。

対象 まちなみ建築部門(建築物、まちなみ)

・景観への配慮、環境との適合、県産木材の利用、古民家の再生などに優れた建築物  
・広告物の統一、無電柱化、地区計画・建築協定によるデザイン誘導等により形成されたまちなみや修景されたまちなみ

花と緑のまちづくり部門(まちづくり活動)

・ひょうご花緑創造プランの理念である県民の参画と協働でつくる花と緑あふれる多様な県土づくりなどの優れた取り組みを行っている団体または個人

ユニバーサルデザインのまちづくり部門

(建築物、施設、まちづくり活動)

・誰もが、安心して住まい、自宅から街なかまで安心・快適に移動し利用できるよう、配慮・工夫がなされた建築物または施設およびユニバーサルデザインのまちづくりの実現に向け、優れた取り組みを行っている団体または個人

防災まちづくり部門

(建築物、施設、まちづくり活動)

・災害に対し、耐震性・防火性などの向上に配慮・工夫がなされた建築物または施設および防災まちづくりの実現に向け、優れた取り組みを行っている団体または個人

まちづくり活動部門(まちづくり活動)

・景観形成の推進、田園まちづくり、中心市街地の活性化、既存市街地および団地の再生、都市と農村の交流、環境への配慮などの優れた取り組みを行っている団体または個人

締切り 平成24年7月13日(金)消印有効

兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課都市政策係 TEL078-341-7711

研修・イベント

市民フォーラム

住み慣れた地域でずっと暮らすために

日時 平成24年7月14日(土)

10:00(開場9:30)~16:30

会場 イーグレひめじ あいめっせホール

参加費 500円

内容 陶芸家 岡上多寿子さんによる基調講演「いっばいごめんいっばいありがと」、質問タイムなど

西播磨地域での支援や介護を考える会事務局(NPO法人はなのいえ)

TEL079-268-0087

第5回 重症児者・病弱児の明日を考える研究集会

家庭・保育・教育・福祉・医療のさらなる連携を進めるための研究集会を開催します。

日時 平成24年7月14日(土)

10:00(受付9:30)~16:00

会場 神戸市勤労会館

参加費 一般1,000円、学生500円

内容 三木裕和さんによる講演「重症児の窓口~教育、福祉、医療、家庭を結ぶもの~」など

重症児者・病弱児の明日を考える研究集会実行委員会 FAX078-981-2893

URL <http://blogs.yahoo.co.jp/asukenkobe>

行事予定

7月 3日 福祉事業推進部会◆県福祉センター

地域福祉推進部会◆県福祉センター

5日 会計実務担当者研修(老人コース)

◆県中央労働センター

6日~ 介護支援専門員更新研修B・再研修

◆県のじぎく会館ほか

8日 第1回福祉の就職総合フェア in Hyogo

◆神戸国際展示場3号館

10~11日 医療扶助・介護扶助事務担当者研修

◆社会福祉研修所

18日 会計実務担当者研修(障害コース)

◆県私学会館

19~20日 相談面接技術研修(初級)Aコース

◆社会福祉研修所

20日 経営協第222回理事会、7月度例会

◆県福祉センター

23~24日 相談面接技術研修(中級)Aコース

◆関西学院大学

24日 県知的障害者施設協会創立50周年記念式典

◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル

8月 1日 会計実務担当者研修(保育・措置コース)

◆県私学会館

2日~ 介護支援専門員実務従事者基礎研修

◆県中央労働センターほか

10日 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会設立総会

◆神戸市内

22日~ チームマネジメントリーダー研修(Aコース)(全4回)

◆社会福祉研修所

23日 第51回社会福祉夏季大学

◆神戸国際会議場

28日 社会福祉法人経営計画策定セミナー第1回(全4回)

◆県福祉センター

平成24年9月1日  
オープン予定!

お問い合わせ：078-801-7771  
担当：下倉

7月 入居相談会(10時~16時)

●兵庫県福祉センター(最寄:王子公園駅)

11日◎・14日◎・21日◎・28日◎

●神戸市勤労会館(最寄:三宮駅)

3日◎・8日◎・29日◎

●六甲勤労市民センター(最寄:六甲道駅)

16日◎◎・22日◎

神戸市指定介護保険特定施設(申請予定)

介護付き有料老人ホーム



\*権利形態/土地の賃借、建物と自営 経営はオーナー型

Charm Suite 神戸摩耶

摩耶山の緑を背景に、神戸を一望、閑静な住宅地にあるホームです。

料金プラン	入居一時金	月額利用料(家賃・食費・管理費)	
		介護居室(要支援1~要介護5)	一般居室(自立~要介護5)
		18.27~21.53㎡(39畳)	20.29~25.34㎡(6畳)
プラン [1]	0円	298,000円~328,000円	318,000円
プラン [2]	420万円	228,000円~258,000円	248,000円
プラン [3]	840万円	158,000円~188,000円	178,000円

プラン [1] は家賃毎月払。他プラン [2] [3] は家賃一部前払もあり。[月額利用料内訳] ●家賃:15,000円~185,000円(料金プランと居室により異なる) ●食費:30日1人分:63,000円 ●管理費:80,000円~85,000円 管理費の使途:共用施設の光熱費、居室の水運代、事務費、生活サービス等に当る人権費※月額利用料金については別途介護保険自己負担分・医療費・おむつ代・個別対応費用等が必要

【施設概要】チャームスイート神戸摩耶●類型:介護付き有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)●事業主体:株式会社チャーム・ケア・コーポレーション●所在地:神戸市真岡通4-5-2●権利形態:土地/賃借(契約期間:50年)、建物/所有者:株式会社チャーム・ケア・コーポレーション●敷地面積:1555.43㎡●建物延床面積:2522.82㎡●構造:規模:鉄筋コンクリート造地下2階、地上3階建て●確認済証:第ER11104309号(平成23年11月16日)●居室数:45室(全室個室)●居室面積:介護居室18.27~21.53㎡、一般居室20.29~25.34㎡●居住の権利形態:利用権方式●利用料の支払い方式:選択方式●一般型特定施設である有料老人ホームの介護にかかわる職員体制:2.5:1以上●夜間最少時(20時~22時)職員体制:介護職員2名(満室時)●入居時の要件:要支援・要介護・自立●広告有効期限:平成24年8月末日